

平和のため後世に語り継ぐ戦争体験 長崎原爆

「ピカー、ドーン」ものすごい音、部屋の壁が「サーッ」と落ちてきたので、びっくりして咄嗟とつさに畳に身を伏せました。恐る恐る体をあげて辺りを見まわしますが、そこに爆弾の落ちたあとはありません。（その時は警戒警報で昼食時でもあり、防空壕から出て部屋にいた。）

急いで外に出て見ると、長崎の空に大きなきこ雲が見えました。

長崎へアメリカが新型爆弾を落としたという話。しばらくたつと長崎師範学校男子部（長崎市）の生徒が、私、女子部（大村市）へ、10人はこぼれてきました。頭から足先まで、全身ガラスの破片がつきささり、血をダラダラ流し虫の息です。水、水、水を飲ませてくれと弱弱しい声でいつてきます。私たちは、水を飲ませましたが、水を飲むと全員息をひき取りました。

当時、私は17歳と若かったので汽車にのり、長崎市を見に行きました。ホームのコンクリート土台だけが残りあとは焼け野原でした。恐ろしくなり、すぐ次の汽車で大村に帰りました。

原爆を落とす前の日。その時はB 29は爆弾は落とさず、紙のビラを学校の運動場へ落としたのです。紙を拾いましたが、用紙に上半分に時計の絵。11時2分をさして、下半分には「花の都、長崎は、灰の都と化す。」と書いてありました。後でわかったのですが、ちゃんと予告して落していたのです。毎日の空襲で、防空壕の中にいても頭上をグラマンが低空飛行で機銃掃射あびせ生きた心地はしませんでした。

百年前から日清・日露戦争など戦争がつづき、日本は神の国だから神風が吹いて必ず勝つといっていました。太平洋戦争で一発の原爆により敗戦。（私たちは、竹やり、なぎなたの訓練をしていた。）

佐世保の自宅は空襲で焼け、その時祖母も焼死しました。現在、私は86歳になり、熊本市中央区に住んでいます。あれから69年たちました。こんな悲惨な戦争二度と起こしてはなりません。